

令和元年度東北大学附属図書館事業報告

■ 中期計画（第3期）

【80】本学の学術情報拠点として、本館と分館との協働の下で、基盤的学術情報の整備、学習環境のサポート、貴重図書・資料の保存・発信、業務の効率化など図書館機能の活用を進める。

■ 年度計画（令和元事業年度）

【80】本学の学術情報拠点として、図書館機能の向上を継続的に進める。特に、電子ジャーナル等購入の更なる最適化、オープンアクセス方針に基づく学内研究成果の更なる公開、授業及び学内関連部署との連携による学習支援の実施、医学分館等の改修による飛躍的な機能向上、青葉山 commons の利活用の促進、貴重資料の展示会の実施や電子的公開及び研究活用の推進、業務の効率化を目的とした事務組織の改編及び図書館の自主財源の確保など、効率的な図書館機能の活用を継続して実施する。

■ 実績報告（令和元事業年度）

(1) 学術情報のデジタル化・オープン化の推進

- 1) 「東北大学学術情報整備計画」に基づき、本学教員の研究推進に必要な電子ジャーナル・データベース等の整備を行った。毎年実施している購読誌の見直しに加えて、インパクトファクター把握のために購読していたデータベース (Journal Citation Reports) の購読中止により約700万円の削減を実現した。こうした取り組みにより、大型パッケージの契約も維持することができた。
- 2) Read & Publish 型の契約モデル (購読料と OA 論文掲載料のセット契約) について、経費節減の面から今後本学でも検討が必要になってくることを踏まえ、世界的な学術雑誌の動向について研究推進課と共催で図書館長によるセミナーを学内 6 か所で開催、参加者は主に教員で約 150 名の参加を得た。
- 3) 古典資料のデジタルアーカイブについて、国文学研究資料館を中心とした大規模プロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の一環として、撮影による貴重書 600 点、マイクロフィルムからの変換による狩野文庫 3,500 点のデジタル化を実施した。

(2) 学習・教育研究環境の整備

- 1) 学習支援機能の強化を図ることを目的として、情報サービス課内の係を再編し、学習支援係を新設した。また、附属図書館副館長を委員長とする附属図書館学習支援委員会において、教員や学内関連部署との連携により、本学学生の学習支援を推進している。
全学教育科目「大学生のレポート作成入門:図書館を活用したスタディスキル」での授業評価は全項目において平均を上回り、総合評価は全科目平均の 4.2 を上回る 4.4 の高評価となった。さらに、附属図書館本館・分館で講習会を 74 回開催し、主に学部学生を対象に図書館の利用方法や電子ジャーナル・データベース等の活用方法

の説明を行い、延べ 1,329 名が受講した(学部学生 10,814 名中)。

- 2) 附属図書館本館の無線 LAN(eduroam)について、2019 年度総長裁量経費を得て、増強及び高速化を行った。これにより、年々増加する持ち込みデバイス(PC、タブレット等)への対応及び令和 2 年度からの BYOD 推進に向けての環境を整備することができた。
- 3) 青葉山コモンズ(青葉山新キャンパス)内の青葉山新図書館(ラーニングコモンズ及び農学分館)は、合計延べ 169,225 人に利用され、年々増加している。日常の学習・研究のみならず、学会やシンポジウム、授業・ゼミ、学生国際交流団体のセミナー・ミーティング等でも活用された。

(3) 図書館独自財源の確保

- 1) 本学と READYFOR 株式会社との業務提携に伴うキックオフ事業として、クラウドファンディング「漱石の肉筆を後世へ! 漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」を実施し(募集期間 11 月 5 日~12 月 26 日)、217 人から、当初目標額 200 万円の 2 倍を大きく超える 4,687,000 円の支援を得た。
- 2) 前年度末に設置した特定基金「図書館のみらい基金」への寄附は着実に進行し、寄附受付額は 1,000,390 円であった。

(4) 図書館施設や蔵書を活用した社会貢献・広報活動

- 1) 学内関連組織との連携を深めた上で、年間を通して様々な展示を行い、学内外からの多くの参加を得た。
- 2) 附属図書館利用者や国内外の各方面に対して、図書館サービスや事業について周知するために、引き続き SNS を活用して広報を活性化させた。Twitter は 11 月にツイート数が 1 万件を超え、フォロワー数は平成 30 年度末から 300 名増の 6,300 名超となり、国内の国公私立大学図書館で 4 位(Twitter 開設 136 館中)を保持している。
平成 30 年 11 月に開設した Instagram も、11 月にフォロワー数が 300 名を超え、国内の国公私立大学図書館では 3 位(Instagram 開設 22 館中)を保持している。
また、留学生コンシェルジュ(大学院留学生 AA)も、SNS で留学生向けに図書館を活用した学習・研究に関する情報発信に努め、外国人留学生の修学環境の整備に貢献した。Facebook は 600 名近くがフォローしており、また、図書館(本館・分館)を紹介するプロモーションビデオも追加・更新した。